

住友化学 i - 農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第91号 平成24年7月31日
発行 住友化学(株) アグロ事業部
お客様相談室 0570-058-669
編集者 佐伯晴子
発行責任者 南 圭三郎

目次

農家さん訪問記 (75)	p. 1
住友化学アグログループ T S P の取組みと住化ファームの紹介	p. 6
住友化学アグログループ紹介 日本エコアグロ(株)	p. 10
食の安全性について考える(29)	p. 11
今月のお奨め農薬	p. 12
今月のご相談から	p. 13
お役立ちプチ情報	p. 14
農薬登録情報	p. 15
病害虫発生情報	p. 15
通販のご紹介 (日本エコアグロ(株))	p. 17
最近の「お・・美味しい!」	p. 18
編集後記	p. 19



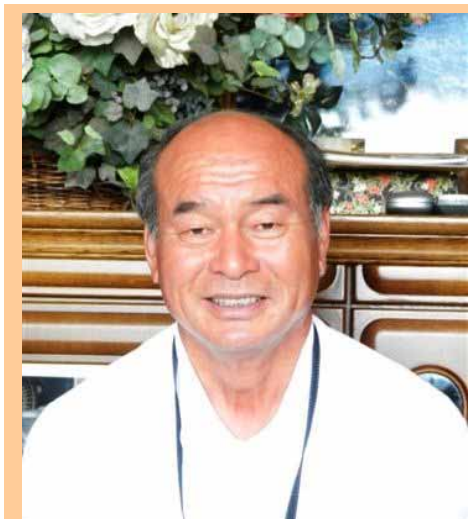
ゴジュウカラ (ゴジュウカラ科) とカンボク (スバハラ科)
富樫 信樹 画

農家さん訪問記(75)

効率的な農作業をする工夫が楽しい

今回の農家さん訪問記は、北海道網走郡美幌町で、ばれいしょ、小麦、てんさい(ビート)、にんじん、だいずを栽培している有限会社トップアグリの村上寛貢(むらかみ ひろつぐ)さん(60歳)を訪ねお話を伺いました。初めて降りた女満別空港は、畑の中にあるイメージでした。空港から宿泊地(北見市)までバスで移動する途中、車窓に見えるのは、たまねぎ、てんさい、小麦が整然と植えられている風景で北海道はやはり・・・広い!と感じました。(取材日:6月27日)

技術者志望から農業人へ



村上寛貢さん (60歳)

有限会社トップアグリは、村上さんが代表取締役をされており、社員は、村上さんのご両親と、奥様、そして息子さんと息子さんのお嫁さんの6人です。取材は、村上さんのお宅でさせていただきました。今、自宅の前に息子さん夫婦のための新居を建築中です。

最初に、農業を始めたきっかけを尋ねてみました。工学系の大学を卒業した村上さんは技術者になりたかったそうです。在学中、色々な種類のアルバイトを経験し、どうも人に使われるのは苦手と悟り、そのころ農家3代目のご両親から、給料を払うからとの誘いに就農したそうです。22歳から農家さんになりました。教員資格持ちの農家さんです。

村上家は戦前からでんぷん工場を営んでいました。現在は、ばれいしょ9ヘクタール、小麦18ヘクタール、てんさい16ヘクタール、にんじん6ヘクタール、だいに1ヘクタールの合計面積約50ヘクタールという大規模栽培をしています。栽培時期などについて作物ごとに聞いてみました。

最初に手がけるのは「てんさい」です。3月に、は種しハウスで育苗(45日くらい)した後、4月下旬から畑に植えます。この時期は年によって、霜にやられたり、風にやられたりします。ゴールデンウィーク(GW)中は他の農作業も重なり繁忙期になります。今年の場合は、GW前半に移植した人は良かったのですが、GW明けに積雪があり、植付けが遅れたところは生育が悪く収穫量や糖度が落ちるので管理も大変だそうです。また植付けた日に気温がマイナス5度になると苗が枯れてしまいます。枯れたらもうダメなのですかと問うと、植替えや補植をするそうです。その苗をどうやって入手するのかといえば、各農家さんは、余った苗を製糖会社に登録する制度になっていて、その情報を基に苗を入手しているそうです。「なるほど、無駄がない良い制度」と思いました。植付けには5~10日かかります。育苗期の伸長抑制にはスミセブンP液剤を使っています(偶然、弊社剤でした)。10月下旬~11月上旬に収穫になり、製糖会社仕立ての車が集めにくるそうです。

二番目に手がける作物は「春小麦」です。春小麦(銘柄:春よ恋)は、4月中旬に、は種して、8月中旬に収穫にします。



広々とした「てんさい畑」

ボラバイト起用で農業普及も

三番目に手がける作物は「ばれいしょ」です。今年は低温続きで例年よりも植付けが遅くなり5月20日~23日までかかって植えました。収穫は9月から約1ヶ月かかります。この時期、インターネットでボラバイトを雇います。ボラバイトとは、無償ボランティアと有償アルバイトの造語です。賃金をもらいながら、農業体験をするようです。過去のボラバイトさんの働いていた様子を写真でみせていただきましたが、みんな楽しそうに働いていました。ボラバイトさんの期間は1ヶ月で、今年は8月下旬から1~2人来てもらいます。どのような仕事をするのかを聞いてみると、ばれいしょの選別が主で、土を取ったり、ゴミを取ったりしてもらいます。時にはトラクタに乗って運転したりと、ボラバイトさんにとっては初めて経験する事ばかりです。中には何年も来てくれた人もいたそうです。以前には収穫期がずっと雨降り作業が出来なかったこともあったそうです。お天気次第と苦笑いの村上さんです。昨年までは、ボラバイトさんの他に実習生(農業大学の生徒)もいましたが、今年はいません。ボラバイトさんの為に、自宅には宿泊できる部屋を3つ作っています。休日は2日連続として、道内を旅行できるようにしています。大抵の人は富良野に行くって笑って話してくれました。



小麦畑

ばれいしょは今までは「食用いも」と「加工用」を栽培していましたが、今は「加工用」だけにしています。食用いもは、規格が厳しいので加工用に切り変えました。納品先は農協ですが、ポテトチッ

プスになるそうです。

「だいず(品種:ユキホマレ)」は、5月20日頃に、は種し、10月下旬にコンバインで収穫します。納品先は、農協と㈱イソップアグリシステムです。㈱イソップアグリシステムは村上さんが仲間と設立した会社です。大豆をマイクロフーズ(微粉末)に加工したり、豆腐屋さんに直販もしています。

「にんじん」の栽培時期は、農協の選果場からの指示によって植付けの日程が決まりますが、5月から7月中旬に植付けします。100~110日で収穫になり、収量の50%は、農協の選果場に納品し、残りの50%は青果業者に納品になります。

そして、最後に「秋小麦」の栽培が始まります。9月20日過ぎに、は種し、翌年8月上旬に収穫します。春小麦や秋小麦の一部品種はパンや中華めんなどの小麦粉になります。秋小麦の主要品種の「きたほなみ」はうどん用ですが、春小麦は㈱イソップアグリシステ



小麦の花



ムに納品しています。江別製粉で粉にしてもらってパン用の粉やパスタめん加工して販売しています。

ばれいしょは9ヘクタール栽培しているので、植付けに何日かかるのかを聞いてみました。通常2日で済むそうですが、今年は3日かかって植付けしたそうです。それは何故ですかと更に聞かけると、植付けの機械の開発試験をしながらやっているの・・・との返事です。

技術者としての本領を發揮

さて、ここから、村上さんの技術者としての本領が發揮されます。



G P S 搭載の優れもの

植付けの作業は、施肥、スジ切り、植付け、培土と通常4つの工程があるが、その作業をもっと効率的に出来ないか、1回で済ませることが出来たらいいなあ・・・!と考えました。肥料を落としながら、植付けと同時に土寄せが出来たら作業の効率もあがると考え、得意のパソコンで設計、光センサーの専門の人を探し協力を求め実現に至りました。ブログにその様子を掲載したと

ころ、神戸の人から、自分の技術(今まで船のGPSを作っていた)を使わないかとの申し出があったそうです。パソコンを通じた多くの仲間がいるようです。こうして出来上がったのが、GPS搭載のトラクタです。この優れものは、「土壌条件に左右されずに精度の高い速度計測機能がある(GPSの特徴のひとつ)ので、GPS速度



G P S コントロ-ラの説明をする
村上さん

センサーにより正確なトラクタの速度を把握し、その速度を施肥機の肥料排出量に連動させることで、適量の肥料を均一に散布することが可能となる」と村上さんは教えてくれました。広大な農地には起伏もあり、上り坂では速度が遅くなったりタイヤがスリップしたりします。また、下り坂はその逆です。スタート時は種いもや肥料を大量に積載して重量がかかり、タイヤが扁平になることでタイヤ直径が変わり、通常速度計測では誤差が生じます。1%のロスは大規模経営では大きくコストに影響してきます。まっすぐ走行するなら人が乗らなくても良いのですが、ターン（方向転換）には人の手が必要なので乗っているそうです。この優れものは、ばれいしょだけではなく、にんじんやてんさいなどのトラクタにも装着する事ができます。更に、村上さんのすごいところは、こういった技術を惜しみなく地域の人に伝授しているところです。多くの方が使うようになればコストダウン（大量生産）になり求めやすくなります。他にもばれいしょの欠株をなくす為の装置を開発したりと工学系のヒラメキを活かして大活躍です。

土壌診断分析は海外に委託



ばれいしょ欠株防止の機械

昨年の栽培時に病気などがあつたのかを聞いてみました。小麦（きたほなみ）でニバーレ（赤かび病の一系統）が発生し葉が枯れたそうです。そういった麦は細麦（さいばく）と言われ等級が下がってしまいます。慣行的に使用していた殺菌剤に耐性菌が出たことも多発の原因だとも考えているようです。きたほなみは、従来品種より2割増収すると言われた品種ですが、ニバーレが発生しと思うように収量があがらなかったそうです。

てんさいでは褐斑病が発生しました。ここのところの温暖化の影響でしょうか、9月下旬まで防除しないとダメな年もあります。一昨年は減収しました。

ばれいしょ畑のイヌホウズキはやっかいな雑草で、萌芽してからは効く除草剤がないとの事。これは省力のため取組んでいる一発培土の弊害とのことで、何回も培土すれば問題は少ないのだが、とのことでした。現在では「萌芽直前に土壌処理剤を散布することで解決できている」と村上さん、経験と努力の結果ですね！

肥料について聞いてみました。土壌診断をしています。それもアメリカの会社に委託しており、土壌をサンプリングして送っています。コンサルタントの人は現在ニュージーランドに住んでいますが、北海道では120~130人が契約していて、年2回来日しているようです。土壌分析とそれに基づく施肥設計を含め、年間30万円（1点1万円）近くかかります。分析表にはきめ細かい情報が記載されており、この情報を基本にしながらも、村上さんの今までの経験も反映させて必要な肥料を購入しています。不要な肥料を購入しなくて済むので調査料金はそんなに高くないそうです。

大規模経営は4人のチームワークで

ところで、(有)トップアグリでの働き手は、村上さんと奥様、息子さん（32歳）と奥様の4人です。若奥様は今年3月に嫁いできました。それまでは家族3人で50ヘクタールの農作業を行っていたとの事で、大きな戦力として家族の期待大というところです。現在、若奥様は農業修行中です。大型トラクタ運転には大型特殊、4トントラックの運転には中型免許が必要なので取得したとの事。今日は、奥様と一緒に畑で修行中です。息子さんは工学系の大学を卒業して就農しました。技術屋2代目でしょうか。



散水車

冬、農閑期はどう過ごされているのかを聞いてみました。のんびりされているのかと思えば、これまたびっくりです。根っからの機械人間(機械いじり好きな人)のような印象を受けました。税務指導をする為に、農協にソフトの開発を委託して昨年までは周辺の農家さんに、パソコンで簿記を教えており、また、税金のアドバイスもしていました。

たくさんの資格や技術をお持ちの村上さんですが、その技術を惜しみなく、農家の方や普及活動に活かしています。そういった事が地域の皆さんから慕われ「北海道指導農業士」に任命されているのだと思いました。高齢化する農家のために、画期的な機械を開発して、

より安全で使い勝手の良い農業機械を作っていただきたいものです。

最後に、この広大な畑にどのようにして水を撒くのかを聞いてみました。近くのダムから水を引いており、畑の中に配管(給水栓)が設置されていて、そこから取水して散水すると教えてくれました。大きなビニールハウスには、散水用の大きな機械が3台ありました。



給水栓



育苗ハウスは散水車の保管場所に・・・手前は小麦畑

あとがき

村上さんのお話を聞いていると、ずんずん楽しい気持ちになってきました。今計画中なのは、山の木を切った後にソーラーパネルを設置し、その電力を北海道電力に売ることです。仲間を募り、ソーラーパネルの会社に2000~3000枚でいくらになるかと試算してもらっているとか・・・あと10年は給料を貰えそうなので、売電収入でその後の生活資金をとお考えです。なんともスケールの大きさにただただ驚くばかりでした。

今回の農家さん取材につきましては、びほろ農協購買課 伊美様のご紹介をいただき実現できました。どうもありがとうございました。(手塚・小川)

[目次へ戻る](#)

いつも、どこでも、農業と。

住友化学アグログループTSPの取組みと住化ファームの紹介

第2回 (株)住化ファーム山形

ご紹介の前に・・・住友化学アグログループは次の一歩へ

化学と農業。一見結びつきにくい2つの言葉は、実は住友化学の歴史の中で重要な位置を占めています。なぜなら99年前、銅製錬で排出されるガスによる煙害を解決するため、その原因である亜硫酸ガスから肥料を生産したことが事業の出発点だからです。住友化学は肥料の製造により煙害の解消と食糧増産に貢献するという理念から事業を開始して以来、農薬事業をはじめ、種子・苗、肥料、その他の農業資材事業を展開し、日本の農業と共に発展して参りました。

昨今の農業を取り巻く環境変化*を目の前にし、今こそ肥料・農薬の製造・販売など幅広く手がける住友化学グループの力を結集し、もう一歩踏み込んでみよう、自らの手で新しい変化を生み出そうと考えています。そのための手段が、自らが「**TSPとなること**」であり、**農業法人「住化ファーム」**の設立でした。

*耕作面積の減少・生産者の高齢化などの農業生産構造自体の変化や
消費者の安全・安心志向の高まりを背景とした農作物の流通自体の変化

TSPって・・・?

TSPとは「トータル・ソリューション・プロバイダー(Total Solution Provider)」の略。住友化学グループの農業関連資材・サービス、栽培技術、経営ノウハウから農産物販売までを提供することで、農業の全ての分野において農業生産者の皆様を総合的に支援します。

【TSPにかかわる住友化学アグログループ関連事業・会社・事業内容】

- 住友化学(株) (肥料・農薬・農業経営支援システム)
- サンテラ(株) (ハウス資材・農POフィルム)
- 住化農業資材(株) (栽培技術・灌水資材・野菜の種子&苗)
- (株)住化分析センター (土壌分析・栄養成分と残留農薬の分析)
- 日本エコアグロ(株) (農産物販売・作物の選定&販売支援・肥料設計・栽培指導)

TSPについて詳しくはコチラ! <http://www.i-nouryoku.com/link/tsp.html>

総合的な支援!

住化ファームって・・・?

住友化学が運営する農業法人の名称です。

住化ファームの狙いは、自身が主たる生産者となることではありません。あくまで、**地域農業の活性化の一助となること**であり、同じ志を持つパートナーと集い、ともにこれからの農業を作っていくことです。

住化ファームでの経験を通じて、安定品質・高付加価値を実現する栽培技術の確立・標準化を目指しています。また、流通・販売の分野で新しいチャンネルを作り出すことが可能になります。こうした試みの成果は、全国の生産者の皆様にノウハウとして提供できます。

その意味で、住化ファームは**新しい農業のための実験・実証の場**です。特に生産技術に関しては生産者と親密なコミュニケーションをとることができ、各社の資材を有効に利用した総合的な農業支援が可能になります。また、農場経営は雇用の創出にもつながります。ひいては後継者の育成にも役立ち、**地域貢献**の幅に広がりをもたせることができます。

【現在の住化ファーム】

- (株)住化ファーム長野 (長野県中野市/いちご)
- (株)住化ファームおおいた (大分県豊後大野市/トマト)
- (株)住化ファーム山形 (山形県中山町/トマト)
- (株)住化ファーム三重 (三重県志摩市/みつば)

各所で奮闘中!
がんばっています

次頁いよいよ住化ファーム
山形の紹介です!

(株)住化ファーム山形



住友化学アググループTSPの取組みと住化ファームの紹介ということで、今回は第2回目として(株)住化ファーム山形をご紹介します。

(株)住化ファーム山形 概要

設立日	2011年9月7日(栽培開始同年11月~)
住所	山形県東村山郡中山町岡字中江1828
出資者	住友化学(株)、山形日紅(株)、(株)丸勘山形青果市場
お話を伺った人	山形日紅株式会社 農材本部 花輪功人 専務 住化ファーム山形 場長 佐藤 裕(34)さん
就労構成	佐藤さん+栽培担当者4名(男性1名・女性3名)
作物・品種	カンパリトマト(中玉トマト)
面積	総栽培面積約38a(カンパリトマト27a+試験圃場11a) ハウスは13棟
栽培暦	2月中旬から準備 4月中旬定植 7~8月収穫ピーク・収穫は11月下旬まで
栽培方法	隔離土耕栽培(栽培用ベンチに培土を入れたもので栽培) 養液肥料栽培・Qターン整枝法採用

さらなる産地化を目指して 組まれた強力タッグ!

住化ファーム山形は、山形県の東部、山形市や天童市に近い東村山郡にあります。山形といえばさくらんぼや西洋梨など果樹栽培が盛んなことで有名ですが、実は今回ご紹介する「中玉トマト」の生産も盛んで、夏秋どりで日本一を誇ります。しかしそこまでの道のりには10年以上かかりました。

山形県の中玉トマトを語る上で地元の企業、山形日紅(株)さんと(株)丸勘山形青果市場さんを抜きに語ることはできません。両社は山形

県の色々な作物の産地作りに取り組んで25年の実績があります。山形日紅さんが約12年前にこのファームのある土地を農地所有して試験圃場とし、カンパリトマト等の種々の野菜の産地化を検討しました。12年前といえば、中玉トマトは市場に無く、まだ試験段階の時代です。山形日紅さんはこの農地を(有)太陽農園として苗の生産からスタートさせましたが、当初生産品目にトマトはありませんでした。その後、大手種苗会社を退任された山形日紅さんの顧問の先生と一緒に新しいトマトの品種を試験栽培する過程で、カンパリトマトと出会うことになりました。この中玉トマトの房が見事だったため、商品化するに



佐藤さんと花輪専務

はどうすればいいか?ということになり、当時から協力体制を取っていた丸勘さんの協力も得て市場での可能性を探り、試験作付けから始まったカンパリトマトは少しずつ増えていきました。ゼロからスタートしたカンパリトマトの栽培は今では当地域に広がり、7年目で夏秋どり中玉トマトの生産日本一になるまでになったのです。

時を同じくして住友化学のグループ会社である日本エコアグロでもカンパリトマトを事業の一つの柱にしようということで山形のトマト農園でカンパリトマト作りに関わっていて、その頃から太陽農園さんとは付き合いがありました。太陽農園さんではカンパリ産地作りといったメドもついたところで、住友化学のTSP構想を知り、山形をより大きな産地にするべく互いに手を組もうということになり、住化ファーム山形が設立されるに至ったのです。



ハウスは13棟あります

ファームは実験実証の場

住化ファームは新しい農業のための実験・実証の場で、その目的は「地域貢献」でもあります。特に住化ファーム山形は、出資者を見ても分かるように、より地元色の強いファームとなっており、3社が一丸となってファームを通して中玉トマトのさらなる産地化を目指しています。また、住化ファーム山形の栽培面積は38アールと、他のファームに比べると小さいですが展示圃場としては十分な大きさです。ファームでは、高品質のトマトを作るだけが目的ではありません。そこに至るまでの栽培管理・流通まで含めた最適の「やり方」を確立し、パッケージ化して周辺に波及させることが真の目的です。しかもこのパッケージ化は、ファーム周辺に波及すべく「現地用」でなければなりません。住化ファーム山形では13棟あるハウスですでに1年目の栽培が始まっていますが、実証と周辺への普及を目指してすべて地元周辺農家と同じ作りのハウス（非鉄骨造）で栽培し、それぞれの棟で栽培方法や使用資材（培土やハウスビニールなど）を使い分けて栽培しています。では、具体的にどんな取り組みをしているのでしょうか？お話を伺いました。



カンパリトマトってどんなトマト？

と、その前に、カンパリトマトの説明をしておきましょう。カンパリトマトはブドウのように房ごとに収穫できる房採りの中玉トマトです。見た目に美しいだけでなく、甘み、酸味、コク、香りの絶妙なバランスで糖度は6～8度前後と高品質なのが特長です。また、作りやすく生育が早いため同じ本数でも大玉トマトと同等以上の収量が見込まれ、収益的にもそれ以上が期待できます。加えて、大玉トマトは商品規格が細かく決まっているのに対し、中玉トマトは規格が無いロスが少なく売りやすいということも魅力の一つです。

周辺農家も期待・注目する「Qターン整枝法」

トマト栽培では、苗が育って伸びていく際に、伸びた茎を斜めに引っ張って伸ばしていく「斜め誘引」という方法が取られることが多いのですが、この方法では生長に合わせて誘引場所をずらさねばならないため作業に手間がかかり負担となっているのが現状です。そこでファームでは群馬県で開発された「Qターン整枝法」という方法を取り入れ、栽培法の確立を目指しています。Qターン整枝法とは、生長に合わせて斜めに誘引していくのではなく、生長していく茎を垂直に引っ張り、ハウス頂部で折り返して何重にもループさせる方法です（その様子がアルファベットのQのようなのでQターン整枝法と呼ばれる）。この方法だとトマトの本数が少なくても通常の斜め誘引法と同等～2割ほど多い収量が期待できるそうです。本数が少なくても良いということは、苗の数も物理的に減らせるということで、作業負担も減り省力化が可能となります。その分、枝のコントロールや下葉取り、害虫・病害防除などの管理に集中できるということも大きなメリットです。このように、Qターン整枝法はメリットが大きいので、周辺農家さんの関心も高いようで訪問する人が多いそうです。ファームが展示圃の役割を担っているということが、このことから伺えます。

最適の施肥管理を見極めるべく模索中

さて、カンパリトマトは房付き（果房に着果させたままの）状態で収穫するのがベストです。房付きだと日持ちもするし商品詰めもそのまま箱詰めできて簡単だからです。ただ、房付き状態でトマトを収穫・出荷することは、色づきに順序があるため最後のトマトが赤くなるのを待っていると最初に色づいたものが過熟となってしまうことになり、そう簡単なことではないそうです。そこで住化ファーム山形では、ロスが少なく収量の高い個取り（房なしバラ出荷）を行っています。山形県では着色も揃い連続した房付き状態で収穫できるのは気温も上がる夏に限定されているのが現状ですが、ファームでは房付き出荷向上に役立つ栽培条件の模索もしています。



Qターン実証中
(これからターン予定)

また、先述のQターン整枝法を確立しつつ高収量を狙った樹勢維持をするとすると、結果的に肥料の投入量が増えてしまうのが現状です。なるべくそうならないための肥培管理が必要で、方法確立に向けてこちらも試行錯誤中です。周辺農家もこのあたりを含めて期待・注目しているそうです。

このようにファームでは現在、安定した出荷と高収量を狙った樹勢維持の両面で、Qターン整枝法に合わせた施肥管理方法を模索しています。まずは1年目ということで色々やってみている状況で、何でもそうですが実際マニュアルどおりには行かないことの方が多いそうです。1年目ということでは、やってみないとわからないのは施肥だけではありません。収穫期のピークをまだ経験していないため、段取りや人の配置、わりふり等も未知数の世界。これら含めてすべて「実証」してみるのです。それがまさにあるべき「ファームの姿」と言えるでしょう。ファームとしてはこのような栽培技術確立に注力するとともに、1反あたり15トンの収量を目標にしています（この収量は専業ではトップクラス）。

地元全体で産地を盛り上げていこう

では、収穫後の流通はどうでしょうか？既に山形の中玉トマトということでは、丸勘さんという地元の青果市場が集荷機能をもっているため、現在は丸勘さんが一括でトマトを集めて、市場へ出している状態です。ファームのトマトも今年の分からは、全量丸勘さんを通して出荷される予定です。その先の販売は日本エコアグロが担当します。

また、現在、地元のJAではカンパリトマトがイレギュラーな作物で共撰にならないため取り扱い品目に入っていません。丸勘さんとJAは言わばライバル同士の関係ですが、より大きな産地化を目指すためには、いずれは協力してある程度JAでも取り扱って欲しいと思っています。こうして地元全体で盛り上げることで、西の産地に対抗していきたいと考えています。

ということで、「まずは何でも1年やってみて」という状況の住化ファーム山形です。これから収穫本番！忙しい夏を迎えます。（取材日：6月13～14日（佐伯））

現場を訪れてみて・・・

実際にファームを訪れてQターン整枝法で栽培されている現場を見学させていただきました。本数が少なくても良いということもあって、通常の圃場より密生しておらず、キレイでゆとりのある動きができる圃場でした。密生していないということは、虫も病気も発生しにくいということで、実際に虫を探しても見つけられず、風通しが良いため病気も見られませんでした。



美味しかった・・・！

カンパリトマトの味見もしました。まず見た目で「赤」が濃くてインパクト有り！味も甘みの中に酸味もあってこの1個だけでも立派なご馳走になりうる味です。そのまま食べるのがベストですが、加熱しても美味しいとのこと（一流レストランのシェフにも高い評価）。ただ、加熱してしまうのはもったいないと思いました。房付き状態のものは見た目（良い意味で）作り物のようにキレイで、食べてしまうのがもったいないほどの出来です。贈答品としての出荷や、店舗での即売会をしてみてもどうだろう？と勝手な妄想が出てきました。

まだ1年目なので今年の方は日本エコアグロを通して首都圏の一部店舗でのお目見えに留まるとのことです。ちなみに房付き状態のトマトは1房7個付きで小売価格298～498円ぐらいだそうです。皆さんのお目にかかるまでには少し時間がかかりそうですが、今後の登場をお楽しみに！いずれ、この時期のさくらんぼのように「カンパリトマトといえば山形！」となるくらいに有名な産地となることを祈っています。

自らをTSP（トータルソリューションプロバイダー）と位置づけ、日本の農業経営を総合的に支援すると同時に、農業経営を通じて社会貢献を行う・・・住友化学アグログループは、この活動をこれからも積極的に進めていきます。今後どうぞご期待ください。

次回は「併住化ファームおおいた」を予定しています（掲載月未定）。どうぞお楽しみに・・・！



ラノーテープ展示待機中



クリンテート使用のハウス発見

[目次へ戻る](#)

住化アグログループ紹介

日本エコアグロ株式会社

はじめまして。

4月の異動で日本エコアグロへ参りました河西と申します。

住化アグログループが進めているTSP（トータル・ソリューション・プロバイダー）。これまでも何度となく“i-農力だより”の中でご紹介させて頂いていますが、グループ各社の有する農業資材の提供・サービス、栽培支援、農作物販売を通じて、生産者の皆様を総合的にご支援する取り組みです。

日本エコアグロでは、安全で美味しい農産商品を“顔の見える”形で消費者にお届けしたいという生産者の方の想いを、生産工程管理や農作物の商品企画・流通によって繋げる役割を担い、日々活動をしています。お役に立てた事例も徐々に増えてきている一方で、生鮮農産物に特有な流通や相場に左右される農作物販売の難しさを経験した、ここ数年でもありました。

これまでの経験を糧に、生産者の方や産地の抱える問題を解決して農業を基幹とした地域活性化の一助となることができれば・・・一步一步ですが、皆様のご指導・ご協力を賜りながら、社員一同心して頑張りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

茨城県西地区で「ししとう」の出荷がはじまりました！

茨城県西地区の竹村与四郎商店様で、『ししとう』の出荷がはじまりました。

『ししとう』といえば、全国的に高知県が産地として有名ですね。茨城県西地区という野菜の大産地で、意外ですが『ししとう』の生産は限られているそうです。

過日、住友化学アグロ事業部東京営業所・特約店様を通じて、竹村与四郎商店様から「安定した収入源になり得る新たな作物を探したい」とお声掛けを戴きましたところ、弊社の販売先からの希望と既存施設の活用、また当地での希少性などの条件から、『ししとう』の栽培をご提案させて頂くこととなり、この6月に無事出荷の運びとなりました。皆様、本当に有り難うございました。

先日、社長の竹村様が弊社を訪れてくださり、放射線の風評から茨城県産野菜の厳しい現状を伺いました。「まずは安定的な供給体制です。一刻も早く風評が収まり、今回の取り組みも含めて、産地が活性化できればよいのですが・・・」とのお話を頂き、改めて原発事故がもたらした事の重大さと、継続性の大切さを思い知らされました。

ご存知の通り、『ししとう』はピーマンと同じ甘味種ですが、特にこの時期は、焼き『ししとう』の甘みと苦味がビールのお供には欠かせません（私的な意見ですが・・・）。



今後実績を重ねながら、栽培面積や生産者の数が増えて『ししとう』の産地化に繋がれば。

生産者の方の益々の発展と産地の飛躍を祈念しまして・・・失礼致します。



(有) 竹村与四郎商店 竹村社長



 日本エコアグロ株式会社

代表取締役専務 河西 康弘

〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-5-4

電話 03-3523-8280

[目次へ戻る](#)

食の安全性について考える(29)**農薬と医薬品の比較**

挿絵：加藤さん

農薬を取り扱うにあたり、大きな3つの安全性が問われることになる。第1は、農薬の取扱者すなわち農薬の製造、散布作業などに従事しているものが被害にあう場合。第2に、農薬が作物に残留し、それが摂取されて人体に影響を及ぼす場合。第3に、農薬が自然環境や生態系に及ぼす影響などについてである。特に、近年は環境運動の高まりとともに農薬への関心も一段と強まっている。それらのことを踏まえ、農薬の安全性について、わかりやすく解説した農薬工業会編「なるほど！なっとく！農薬Q&A」をしばらく掲載したい。(古津)

Q. 農薬と医薬品とはどのように違うのですか。

A. 化学物質としてみた場合、医薬品と農薬に本質的な違いはありませんが、医薬品が基本的に人体という閉ざされた環境で使われるのに対して、農薬は農耕地等の開放された環境で使われます。また、医薬品が人間の命というかけがえのないものを対象としているのに対し、農薬は農産物の生産に貢献する点などから、いくつかの違いがあります。

たとえば、医薬品は人の命を守るため使われるので、その効力が最も重視され、価格が優先されることはありません。農薬は、農業生産のために使われるため、経済性を度外視することはできず、いくら効果があっても価格が高過ぎたり、使用方法が非常に面倒だったりするのでは、商品として市場に出すことはできません。

副作用の許される幅の広い医薬品：農薬は対象の有害生物への活性が強ければ強いほど望ましいのですが、その一方、開放系で使われることから、人や栽培している農作物など有害生物以外の生物や、河川、土壌等環境への影響が少ないほど望ましいこととなります。これに対して、医薬品も活性が重要なことは同じですが、生命維持という究極の目的のみではなく、他に選択肢が無い場合、副作用はかなりの程度まで許容されることがあります。たとえば、強力な抗がん剤には脱毛、肝臓の機能低下といった大きな副作用があることが知られていますし、エイズの治療薬にも強い副作用があります。これは、訓練をつんだ医師による使用を前提としていることや、人体という閉鎖系で使われることなどから許されることで、農薬より安全性が高いからという理由ではないのです。また、医薬品は農薬のように毎年使用されることは少なく、患者が治癒すれば使用を中止することにもよります。

医薬品にも環境規制の動き：医薬品は”薬“であるがゆえに農薬のように環境動態に注意が払われてきませんでした。医薬品も農薬と同様に化学薬品が多く含まれ、薬事法では新薬承認時に有効性と安全性は評価されますが、農薬のように環境中での安全性等が保証されているわけではありません。国内で流通する医薬品の成分は約2800種類にも上り、同法では医薬品による環境影響に関して規制が設けられていないため、医療機関や家庭等から未規制のまま、下水道を経て或は直接河川等の自然界へ排出されているのが現状で、国内でもこの点に注目が集まり始めています。既にEUでは医薬品の新規販売許可申請時に環境影響評価が義務付けられており、アメリカにおいても新規に開発される医薬品についてリスクアセスメントガイドラインが制定されているなど、規制に向けて機運が高まっています。

【参考文献】 松中昭一『農薬のおはなし』2000(日本規格協会)

村本昇『農薬はこわくない』1996(近代文芸社)

杉本達芳『残留農薬のここが知りたいQ&A』1995(日本食品衛生協会)

APEC環境技術交流バーチャルセンター “医薬品の水環境への影響” 大阪産業大学 尾崎博明

[目次へ戻る](#)

今月のお奨め農薬

幅広い作物の害虫防除に

スミチオン乳剤



大地いっぱい、ありがとう。

今月のお奨め農薬はスミチオン乳剤です。スミチオン乳剤は1961年に農薬登録を取得し、翌年（1962年）4月に販売を開始しています。スミチオン乳剤は稲害虫防除薬剤としてスタートしましたが、順次登録拡大を行ない、現在は70種類以上の作物（および作物類）および90種類以上の害虫が登録になっています。今年は販売開始から50周年になり、記念植樹、各種キャンペーンなどの記念事業を行なっています。

スミチオン乳剤の有効成分MEP（フェニトロチオン）の主な特性は下記の通りです。

- 1) 接触毒効果・食毒効果・殺卵力に優れる。
- 2) 幅広い害虫に高い殺虫効果があるなどの殺虫特性がある。
 - ・チョウ目（ニカメイチュウ、アワヨトウ、ハマキムシ類など）
 - ・カメムシ目（カメムシ類、アブラムシ類、ウンカ・ヨコバイ類など）
 - ・ハエ目（ハモグリバエなど）
 - ・コウチュウ目（ブドウトラカミキリムシ、テントウムシダマシ類など）
 - ・ハリセンチュウ目（イネシンガレセンチュウ）

- 3) 植物組織への深達性が強く、食入害虫にも有効である。

イネシンガレセンチュウ、ハモグリバエ類、ハマキムシ類、シンクイムシ類などに高い効果があります。また、カミキリムシ類、キクイムシ類などにも効果があります。

- 4) 環境中では光、微生物や熱によって速やかに分解される。

このような特性から、スミチオンは、マラリア防止、アフリカ諸国のサバクトビバッタ防除、中近東でのムギチャイロカメムシ防除、カナダの森林害虫防除、ブラジルのコーヒー害虫防除など世界100カ国以上の国々で使用実績があり、現在もアジア地域の稲害虫、南米での大豆、綿、果樹害虫、オーストラリアでの牧草および貯穀害虫防除に使用されています。また、ハエ、蚊、ウジ、ボウフラ、ゴキブリ、トコジラミ、ノミ、イエダニなど衛生害虫防除に専門の防除業者によって使用されています。

スミチオン乳剤は以下の事項に注意してお使いください。

- ① ボルドー液と混用する場合は散布直前に行い、できるだけ早く使用する。アルカリ性の強い薬剤と混用は避ける。
- ② あぶらな科作物には薬害を起こす可能性があるため、付近にある場合はかからないように注意する。
- ③ ももの初期散布（5-6月）では薬害のでることがあるので注意する。
- ④ 自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないように注意する。
- ⑤ ミツバチに対して影響があるのでミツバチの巣箱およびその周辺にかからないように注意する。
- ⑥ 水産動植物（甲殻類）に対して影響を及ぼすので、河川、養魚池などに飛散、流入しないように注意して使用する。水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しない。
- ⑦ 街路、公園などで使用する場合は、使用中および使用後（少なくとも使用当日）に子供や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないように縄囲いや立て札を立てるなどの配慮をして、人畜などに被害を及ぼさないよう注意する。

（鳥取）

スミチオン 50周年キャンペーン特設サイト <http://www.i-nouryoku.com/sumithion50th/>

[目次へ戻る](#)



今月のご相談から

バリダシン液剤5の上手な使い方を教えて！

バリダシン液剤5は、リゾクトニア属菌による病害と、細菌性病害に有効な殺菌剤ですが、その特長と上手な使い方について教えて下さい。

Q 1. バリダシン液剤5はどんな特長を持った殺菌剤ですか？

A 1. 本剤は農業用抗生物質「バリダマイシンA」を有効成分とする殺菌剤で糖代謝系阻害と植物の抵抗性誘導という二つの作用機構により効果を発揮します。また、有効成分であるバリダマイシンAは、純粋に発酵生産技術のみを利用して生産した天然物質農薬であり、化学合成農薬ではありません。このことから、本剤を特別栽培農産物生産におけるカウント除外農薬として承認している県や地域もあります。
なお、作用機構や本剤の特長等については、「住友化学 i - 農力だより NO. 69 (2010年9月)」に記載されていますので併せてご参照下さい。

Q 2. 主な園芸作物の細菌病防除について、上手な使い方を教えて下さい。

A 2. キャベツ、はくさい、レタス、だいこん、にんにく、たまねぎ、なす、もも、すもも、かんきつについてご紹介します。

キャベツ、はくさい、レタス

キャベツの黒腐病・軟腐病、レタスの腐敗病・軟腐病、はくさいの軟腐病等の発生生態からみた防除時期は「結球初期」ですが、バリダマイシンAの作用特性から、結球初期よりやや早い（細菌量の少ない）時期からの散布をおすすめします。

だいこん

軟腐病に対しては「本葉3～4枚頃から」10～14日間隔で3～4回散布して下さい。なお、スターナ水和剤や銅剤などの作用性の異なる薬剤とのローテーション防除を心掛けて下さい。散布に際しては、下葉や頭部にもしっかりと薬剤が付着するように、株元をめがけて散布して下さい。

にんにく、たまねぎ

にんにくの春腐病、たまねぎの腐敗病・軟腐病等の発生生態からみた防除時期は、「生育初期～りん片肥大期」ですが、バリダマイシンAの作用特性から、細菌量の少ない「本葉5～6葉期から」の早目の散布をお奨めします。

なす

本剤は「なす／青枯病」に対し、茎葉散布で登録のある唯一の薬剤です。青枯病菌の導管内での増殖を抑制する目的から、「根からの感染前（前年初発時期の約1ヶ月前）」に散布を開始して下さい。既に発生している場合は、発病株を抜き取り、圃場外で処分してから、500倍液を7～10日間隔で連続散布して下さい。なお、青枯病が多発する圃場では、土壌くん蒸剤や青枯病抵抗性台木と併用してお使い下さい。

もも、すもも、かんきつ

一次感染を低下させ、病原菌の増殖を抑制する目的から、「もも／せん孔細菌病及びすもも／黒斑病」は落花直後から、「かんきつ／かいよう病」は萌芽初期からの、早目の散布をお奨めします。なお、他剤と輪番使用するのが効果的です。

なお、トマト、きく（秀芳の力等）には薬害が生じるので、かからないよう注意して下さい。

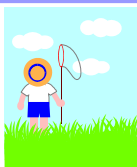
Q 3. 稲の重要病害である「紋枯病」に対する防除適期を教えてください。

A 3. 稲が本病害によって、第3葉鞘から上位部を侵されると大きく減収し、それが穂首まで及ぶと40%も減収します。本剤は「上位第5葉鞘に病斑が上がってきた時期（出穂2週間前～出穂期）」の散布が有効です。なお、本剤は「紋枯病」以外の「疑似紋枯病、もみ枯細菌病」にも適用があり有効です。

(小川)

[目次へ戻る](#)





お役立ちプチ情報

シリーズ「どこが違う」(その4)

同じ害虫であるのに、親子で名前が違う？

今回は成虫と幼虫で名前が違う害虫を紹介します。

イネドロオイムシ

イネドロオイムシはイネクビホソハムシの幼虫です。イネクビホソハムシはハムシ科の害虫で体長は4～4.5mm程度の小さな虫で、稲の葉の表面から葉肉を食害し、葉にカスリ状の傷を残します。イネクビホソハムシは卵から孵化し、脱皮をしながら老熟幼虫になりますが、幼虫は糞を背中に背負っており、これが泥に見えるので、イネドロオイムシと呼ばれます。幼虫は成虫以上に稲を食害し、農薬登録上はイネドロオイムシが適用害虫名になっています。



イネツトムシ

イネツトムシはイチモンジセセリの幼虫です。イチモンジセセリはセセリチョウ科の蝶で、成虫が5月～6月に水田に飛来し、稲に産卵します。卵から孵化した幼虫は稲を食害しながら成長し、出穂間近になると稲の葉をまとめて綴り、苞(つと)を作ります。このためイネツトムシと呼ばれます。イネドロオイムシと同様に農薬登録上はイネツトムシが適用害虫名となっています。

ニカメイチュウ

ニカメイチュウはニカメイガの幼虫です。ニカメイガはメイガ科の蛾で幼虫が稲藁やマコモで越冬します。春に成虫になり、田植え後の稲に産卵します。孵化した幼虫(第1世代)は稲を食害して成長し、出穂前に成虫になります。この成虫がまた稲に産卵します。この卵から孵化した幼虫(第2世代)は出穂前頃から稲を食害しながら、成長し、越冬幼虫となります。このように年2回発生するので、ニカメイガと呼ばれます。しかし、農薬登録上は実際に加害する幼虫であるニカメイチュウが適用害虫名となっています。

ダイコンシクイムシ

ダイコンシクイムシはハイマダラノメイガの幼虫です。ハイマダラノメイガもメイガ科の蛾で関東以西の暖地に生息し、1年に6世代前後発生します。その幼虫はだいこん、かぶ、キャベツ、はくさい等の幼植物の芯部に寄生し、新葉を食害します。かつては秋だいこんの重要な害虫であったので、ダイコンシクイムシと呼ばれました。他の野菜も広く加害し、農薬登録上はハイマダラノメイガとダイコンシクイムシが併用されています。適用害虫名でみると、パダンSG水溶剤は「だいこん」ではダイコンシクイムシですが、「キャベツ」ではハイマダラノメイガです。また、アディオソ乳剤では「だいこん」でハイマダラノメイガとなっています。ご注意ください。

(山脇)

[目次へ戻る](#)

農薬登録情報

7月11日の主な適用拡大の内容です

適用拡大

種類	薬剤名	変更点	作物	病害虫名	使用量ほか	
殺菌剤	住化ゲッター水和剤	使用時期変更	いちご	炭疽病	1000倍 100～300L/10a	定植前日まで ⇒ 収穫開始 21日前まで 3回以内 散布
		使用回数変更	だいず	「ジェットフェンカルブを含む農薬の総使用回数」 「3回以内(種子粉衣は1回以内)」 ⇒ 「4回以内(種子粉衣は1回以内)」		
	プライア水和剤 (北海道限定)	作物名変更	いんげんまめ ⇒ 豆類(種実、 ただし、だいず、 あずき、らっか せいを除く)	灰色かび病 菌核病	1000倍 100～300L/10a	収穫14日前まで 4回以内 散布
		作物追加	だいず			

(阿部)

[目次へ戻る](#)**病害虫発生情報**

7/6～13

**茨城県**

*7月11日 注意報 果樹類(なし、かき、りんご、ぶどう等)／果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ)
当社登録薬剤:

なし:アグロスリン水和剤、アディオフロアブル、アディオン乳剤、スミチオン水和剤40、

スミチオン乳剤、ダントツ水溶剤、パーマチオン水和剤、ロディー水和剤、ベストガード水溶剤

かき:アグロスリン水和剤、アディオン乳剤、サイアノックス水和剤、スミチオン水和剤40、スミチオン乳剤、
ダントツ水溶剤、パーマチオン水和剤、ロディー乳剤

りんご:スミチオン水和剤40、ダントツ水溶剤

ぶどう:ダントツ水溶剤

詳細は:<http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

千葉県

*7月11日 特殊報 きゅうり／キュウリ黄化えそ病 (ミナミキイロアザミウマによって媒介)

当社登録薬剤:

ミナミキイロアザミウマ:アグロスリン水和剤、アグロスリン乳剤、ダントツ水溶剤、ダントツ粒剤、

バッサ乳剤、ベストガード水溶剤、ベストガード粒剤

アザミウマ類:オリスターA(施設栽培)、サイアノックス乳剤、スミチオン乳剤、スミフェート粒剤

詳細は:<http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/index.html>

石川県

*7月12日 注意報 稲／斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、トゲシラホシカメムシ、オオトゲシラホシカメムシなど）

登録薬剤：スミチオン乳剤、粉剤2DL、3DL、スミバツサ乳剤75、粉剤20DL、50DL、ダントツ水溶剤、粒剤、粉剤DL、H粉剤DL、フロアブル、パダントレボン粉剤DL、ベストガード粒剤

詳細は：<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/noken/iffnet.html>

アカスジカスミカメ

**富山県**

*7月13日 注意報 稲／斑点米カメムシ類

登録薬剤：石川県の情報を参照して下さい。

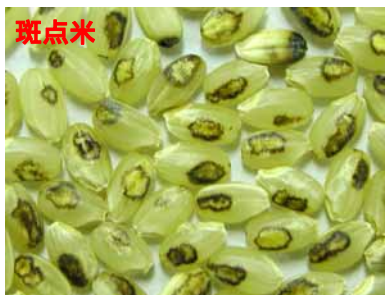
詳細は：<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/nouken/noukentop080401.html>

福井県

*7月12日 注意報 稲／斑点米カメムシ類

登録薬剤：石川県の情報を参照して下さい。

詳細は：<http://www.agri-net.pref.fukui.jp/>

**滋賀県**

*7月9日 注意報 果樹(かき、なし、ぶどう等)／果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ)

当社登録薬剤：茨城県の情報を参考にして下さい。

詳細は：<http://www.pref.shiga.jp/g/byogaichu/index.html>

兵庫県

*7月11日 注意報 果樹類(なし、りんご、かき、但し無袋栽培に限る)／チャバネアオカメムシ(果樹カメムシ類)

当社登録薬剤：茨城県の情報を参考にして下さい。

詳細は：<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>

チャバネアオカメムシ



(小川)

適用内容を確認して、地域に適した薬剤をお使いください。

[目次へ戻る](#)

新企画 第3弾! 通販のご紹介**日本エコアグロ株式会社****疲労回復の黒子が主役に!**

通販サイト【Web エコアグロ】からのお知らせ



「にんにく」にはアリシンやビタミン B6 を多く含み、疲労回復や体力増強に効果があることは良く耳にします。今月は、お料理の脇役ではなく主役としての「にんにく」をご紹介させていただきます。

9月以降、今年の新物が出回ります。この機会に是非ともご用命賜りますよう、宜しくお願いいたします。

【じょっぱりにんにく・特大3個入】2,300円（税別・送料別）
この商品は、青森県三沢市に拠点を構える住友化学㈱が育種の段階から改良を重ね育て上げた『特大にんにく!』粒が大きくそして美しく、甘味・香りともに申し分のない「にんにく好き」にはたまらない逸品です。「じょっぱり」とは、青森県地方で“強情っぱり”や“かたくなに正しいことを行おうとする事”を表す言葉です。

1玉がおおよそ 100g~120g と普通のにんにくの2倍程度のボリュームです。

<http://item.rakuten.co.jp/nihon-ecoagro/10000077/>



【甘熟 黒にんにく・1玉入】800円（税別・送料込）
厳選した香川県産にんにくを独自の製法で約2ヶ月間じっくり熟成させ誕生したのが『甘熟（かんじゅく）黒にんにく』です。名前のお通り、甘味をたっぷり詰め込んだ黒にんにくに仕上がりました。酸味や苦みはなく、ドライフルーツのような感覚です!! また食後の臭いも、気になりません。

<http://item.rakuten.co.jp/nihon-ecoagro/10000078/>



【甘熟 黒にんにく・お徳用バラ詰】1,650円（税別・送料込）
好評の黒にんにくの「バラ品」を徳用パックにしました。内容量約 100g。当社通販の5月度売上 No.1 商品です。

<http://item.rakuten.co.jp/nihon-ecoagro/10000079/>



商品に関するお問い合わせ:

東京都中央区八丁堀 4-5-4 日本エコアグロ(株) 通販担当 電話 03-3523-8280

[目次へ戻る](#)

最近の「お・・美味しい！」

弊社相談室から佐伯がお送りします
最近の「お・・美味しい！」
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、
毎月「これぞ！」というものを紹介します。
どうぞお楽しみに♪♪♪

すごいことになっているトマト！

7月半ばに梅雨も明けていよいよ夏が始まりました！皆さん夏の準備は大丈夫ですか？夏といえば、美味しくなるのが旬の夏野菜！その中でも最近「トマト」がすごいことになっているみたいですね。住化ファーム山形を訪れてトマトの現場を訪問したりと、最近仕事でトマトに関わることが多く、個人的にもトマトがとても気になっているのですが、街に出てよく見てみるとスーパーのトマトコーナーにあるトマトの多彩なこと！大玉、中玉(房付きの!)、ミニトマトだけでなく、いまや小粒のようなマイクロトマトやら、形が楕円形のもの、料理に向くトマト・・いろんな種類のトマトが並んでいて「今はこんなにあるのか〜」と本当に驚きます。

生の果実としてのトマトだけではありません。加工品としてのトマトも熱い商戦が繰り広げられています。定番のトマトジュースは健康ブームに乗ってなんだか品薄状態みたいですし、ジュースだけでなく、トマトドレッシングやトマトラーメン、ビールをトマトジュースで割ったレッドアイなんていうのまで商品化されていて、今やどこを見てもトマトの文字が躍ります。



中でも驚いたのは、ジャムやゼリーなどスイーツの分野にまでトマトが進出していることです。先日お店で食べて美味しかったのは、とうもろこしのプリンにトマトジャムを掛けていただく新感覚のスイーツです。とうもろこしの甘さに、トマトの酸味がマッチしてとても美味しかったです。ジャム自体は甘みと酸味がバランスよく、これはピザトースト風にして使っても美味しいと思いました。そして、トマトゼリーですが、これがすごい！先日仕事で北海道に出かけましたが北海道各地のトマトを使ったゼリーが販売されていました。こちらも種類が多く、「こんなにあるの〜？」と驚くほどでした。柑橘の果汁と一緒にあったものも多く、とても食べやすく、暑さにバテた時にツルン！と美味しくいただけそうです。



そういうわけで、このところ食卓でもトマトづいています。トマトは生食でも美味しいので調理で火を使いたくないこの時期にも重宝する野菜です。よく食卓に登るのは、トマトをざっくり切って、作っておいた玉ねぎマリネを乗っけて出来上がりの簡単冷やしトマト。これに少し「柚子胡椒」を添えるとまた一味違った味わいになります。簡単だし美味しいのでかなりの頻度で食卓に登ります。また、暑いと酸っぱくて辛いものが美味しくなります。酸っぱく

て辛い酸辣湯スープは年中作るほど好きですが、この時期には、この時期らしくスープを冷たくして角切りトマトをトッピングしたものをいただきます。青ネギを散らせば見た目も鮮やかで食欲の無い時でも食が進みます。

これからが夏本番です。熱中症にならないようこの夏を乗り切りたいところです。色とりどりの新鮮トマトや、楽しいトマト加工品を使って暑さに負けない体を作りましょう・・！
(佐伯)



～ 編集後記 ～



農家さん訪問記の取材も今回で 11 回目になりました。取材する時には予め、何を聞こうかをメモしており、それに沿って話を聞きながら、メモにはない部分の情報をいただくことが多いです。以前、大雨の時の「ハウスみかん」の取材では、こういった雨でビニールが飛ばされたり壊れたりする事は



てんさい畑

はないのですかと聞いて、「雨では大丈夫だが、台風で飛ばされたことがある」と農家さんが話してくれました。そして今回は珍しく猛暑の北海道の取材でした。どこまでも広く続く作物畑に、ふと、水を撒くのだろうかと疑問に思いました。過去の取材で一度も問うことの無かった案件です。人間も喉が渇く陽射しです。作物だって水が必要なのでは・と！ひらめき、「どうやって水を撒くのですか？」と聞いてみました。本文に記載しましたが大きな散水車を活用している事を知って安心しました。広々とした畑の中に給水栓が点在している事を知りました。麦畑には散水車の通った跡（麦が踏まれていた）を見ることができました。農業は奥が深い、改めて知った取材になりました。また、作物栽培だけではなく、それを助ける農機具に視点を向けての開発に力を注ぐ農家さんの取材もとても勉強になりました。作物に水を撒くのは当然という事を取材の後で知りました。全くど素人で恥ずかしい限りです。

また、作物栽培だけではなく、それを助ける農機具に視点を向けての開発に力を注ぐ農家さんの取材もとても勉強になりました。作物に水を撒くのは当然という事を取材の後で知りました。全くど素人で恥ずかしい限りです。

今回訪問したのは、北海道の道東地方にある「美幌町（びほろちょう）」の農家さんです。美幌という町名は、アイヌ語の「ピ・ポロ」から由来するそうで、「水多く、大なる所」を意味しているとのこと。まさにその名の通り、美幌町は降雨量が少ないものの、日照率が高く、網走川、美幌川、女満別川等々、水が潤沢な自然環境の中に、緩やかな丘陵地帯が広がっています。北海道の典型的な大畑作地帯を訪問して、直接お話を聞くことが出来て感激しました。

ところで、前日は近くの北見駅前に宿泊しましたが、折角の機会なので取材班は夕方から「北見ハッカ記念館」を訪れてみました。ハッカは「薄荷」と書きますが、「群がり生える地下茎の草」という意味です。日本の薄荷の最大の特徴は、**メントール**という結晶が採れることにありました。明治



ハッカ記念館（旧ホクレン北見薄荷工場）

手前の植え込みの緑がハッカ！そっと葉に触れるとメントールの香りがします。

35年頃から始まった北見ハッカは、昭和14年にピークを迎え、面積で2万ヘクタール、生産量で世界市場の70%を占めたそうです。その後、戦争で衰退したものの、戦後の一時期は復活しました。しかし、その後「結晶」が合成出来るようになったのと、ハッカ原油が外国から安価で輸入されるようになって、ついに、姿を消した歴史があります。しかし今でも6~7ヘクタール栽培されていて、漢方薬に使用されているそうです。短時間の見学でしたが、北海道開拓の歴史に残る「ハッカの町北見」を伺い知ることが出来ました。

（小川）

次月号の i - 農力だよりは
8月31日（金）の発行予定です。
どうぞ楽しみに！！